

## 2009 年度自己点検・評価報告書

## 〔通信教育部〕

## 学生の受け入れ

## (学生募集方法、入学者選抜方法)

**A 群：**大学・学部等の学生募集の方法、入学選抜方法、殊に複数の入学選抜方法を採用している場合には、その各々の選抜方法の位置づけ等の適切性

学生募集方法は、新聞・雑誌広告、全国各地における入学説明会、およびインターネット上による。通信教育部のホームページ『通教ネット』においては、デジタルパンフレットによる入学案内を閲覧し、入学願書の請求ができるようになっている。

なお募集課程・コースは、大学卒業を目的とする正科課程、幼稚園・小・中・高の教員免許状を取得できる3年次編入学(免許コース)、生涯学習コース等、幅広く学べるように開設している。

本学通信教育部は、入学試験がなく、大学で学びたい有資格者の志願があれば、入学できる制度となっており、平等な教育機会を提供している。ただし教育学部児童教育学科では、「教員として必要な資質能力の確実な確認」のため、2010年度より別途、小論文選考を導入することになった。

## (入学者受け入れ方針等)

**A 群：**入学者受け入れ方針と大学・学部等の理念・目標・教育目標との関係

**B 群：**入学者受け入れ方針と入学者選抜方法、カリキュラムとの関係

社会人としての自覚と責任をもって、知識を創造性へと開花させることのできる人材が本学通信教育部の学生像である。共通科目には本学建学の精神をより具現化するための科目を設けている。そして各学部の専門科目を修得し、専門知識を兼ね備えた人材の輩出をめざしている。通学課程の各学部のカリキュラム改訂に対応して、よりいっそう通信教育の特性を活かして、その制約にも配慮しつつ、カリキュラムの改訂を検討している。

## (入学者選抜の仕組み)

**B 群：**入学者選抜試験実施体制の適切性

原則として全学で対応している。

**B 群：**入学者選抜基準の透明性

入学選抜方法は、入学資格の条件を確認し、志願者が提出した入学願書等をもとに「入学審査委員会」における書類選考による。

ただし教育学部児童教育学科では、「教員として必要な資質能力の確実な確認」のため、2010年度より小論文選考を実施することになった。そして「入学審査委員会」の審議を経て可否を判定する仕組みとなっている。

## (入学者選抜方法の検証)

## B群：各年の入試問題を検証する仕組みの導入状況

書類選考による。入試問題該当なし。

## (定員管理)

## A群：学生収容定員と在籍学生数、(編)入学定員と入学者数の比率の適切性

## A群：定員超過の著しい学部・学科等における定員適正化に向けた努力の状況

## B群：定員充足率の確認の上に立った組織改組、定員変更の可能性を検証する仕組みの導入状況

表1のように収容定員と在籍学生数の比率は、学部によって高低がある。

表1

学部	入学定員	収容定員	在籍学生数	比率
		(A)	(B)	B/A
経済学部	2,000	8,000	2,958	0.37
法学部	2,000	8,000	4,280	0.54
教育学部	1,000	4,000	8,523	2.13
合計	5,000	20,000	15,761	0.79

## (編入学者、退学者)

## A群：退学者の状況と退学理由の把握状況

退学者は、毎年約1,800名である。退学理由は、経済的理由、病気、職場の転勤・配置転換、結婚・出産、身内の介護、学習上の行き詰まり、学習目標の変化等さまざまである。特に近年の厳しい経済状況の中で、収入が安定せず学習の継続が困難になっているケースが増えている。また高齢社会になって家族等の介護を理由に退学せざるを得ないケースも増えている。

通信教育は、通信によるレポート学習を主としており、教員と学生が面接する機会が少ないため、学習上の行き詰まりが発生しやすい。まず導入教育段階として新入生ガイダンスを開催し、次に「自立学習入門」のスクーリングにおいてレポートの作成指導を中心として学習の進展を図っている。さらに独学のデメリットをできるだけ軽減・解消するために、通信教育部専任教員が担当し、電話およびメールによる学習相談を実施している。また夏期スクーリング中の「オフィスアワー制度」を毎年拡充している。今後ともさらにきめ細かに学習支援体制を充実させていく必要がある。